

平成25年度文京区障害者地域自立支援協議会 障害当事者部会 検討内容

<実施状況>

- 第1回（平成25年7月30日）…自立支援協議会及び各専門部会について
 相談支援専門部会からのテーマについて意見交換
- 第2回（平成25年11月7日）…就労支援専からのテーマについて意見交換
- 第3回（平成26年1月16日）…権利擁護部会からのテーマについて意見交換

<障害当事者部会下命事項>

- ① 各専門部会から付議された内容についての意見交換
- ② 障害当事者部会で検討された内容について、自立支援協議会（親会）への報告

<検討内容総括>

（1） 相談支援専門部会からのテーマ「相談について」

- ・今まで困った時に相談した相手として、施設の職員や友達、飲食店の店員などが挙げられた。意見としては、「同性よりも異性の方が相談しやすい」や「区役所の職員などよりもバーやスナックの店員といったインフォーマルな人たちの方が相談しやすい」といったものがあった。
- ・ピアカウンセリングや当事者同士の交流は多くの情報を得られるので有益であるという意見が挙げられた。一方で、「どこに相談すればよいのか分からない」や「周囲の人との交流を持っていない人もいるので、そういった人にはどのように情報を提供していくか」という課題も挙げられた。

（2） 就労支援専門部会からのテーマ「仕事について」

- ・委員の現在の就労状況については、働いている方2名、働いていない方4名。
- ・働いている方の仕事内容は、清掃業（週5日、1日7時間）や雑貨食料品店店員（週1日、1日3時間）、ピアカウンセラー（月1日、1日2時間）となっており、2名とも自分の希望とする働き方が出来ているとのこと。
- ・非就労者についても、自分に合う仕事があれば就労意欲があることが分かった。体調が悪い時に休みやすいなどの障害の特性に合わせた配慮や、障害者が自分に合った仕事を見つけやすいような体制づくりが必要。
- ・継続した就労に向けて、障害についての周囲の理解を進めることが必要。特に、実際に仕事で関わる人の理解を進める必要がある。

（3） 権利擁護専門部会からのテーマ「金銭管理について／日常生活での出来事について」

- ・グループホームに住む知的障害者のお小遣いの使い方について、事例を用いて検討した。本人の買いたいものが高額ということもあり、職員が止めたことについては一定の理解が示されたものの、委員からは「お金の使い方は自分で決めたい」「自分の価値観や考えを大切にしたい」「無駄遣いだったとしても、そこから失敗する体験や学ぶ権利を与えてほしい」という意見が挙げられた。
- ・日常生活の中での嬉しかったこと、嫌だったことについては様々な意見が挙がり、周囲の人が気を遣ってくれたり優しくしてくれることが嬉しいという意見がある反面、気を遣われすぎると疲れてしまうし、自分でできることは自分でやりたい、という意見もあった。また、障害があることで対等でなくなったと感じるという意見もあり、障害者の権利を守ることの重要性が挙げられた。